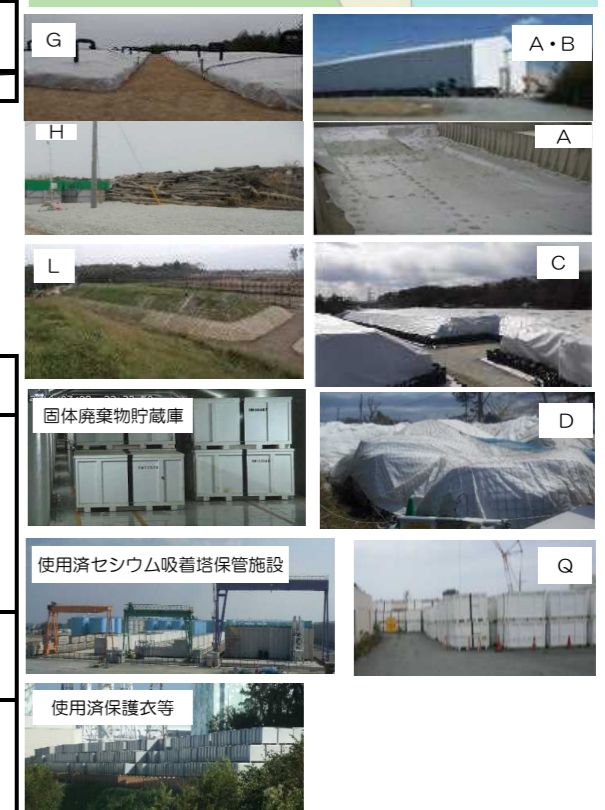
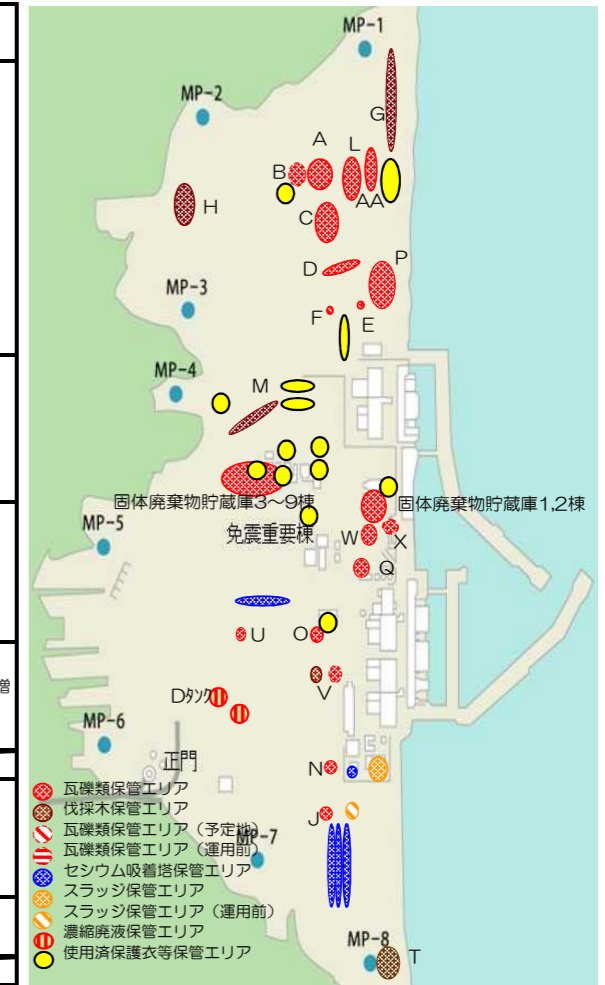


### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2019.4.26時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回集約からの増減 <sup>※1</sup> (2019.3.29 - 2019.4.26)	変動 <sup>※2</sup> 理由	エリア 占有率	保管量 <sup>※3</sup> / 保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	4,100 m <sup>3</sup>	+800 m <sup>3</sup>	①②	78%	196800 / 252700 (78%)	・フランジタンク解体片 2019年4月末時点でコンテナ937基保管。 エリアP1コンテナ数：664基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：273基 (2018年3月15日～)
	C	屋外集積	0.01未満	62,500 m <sup>3</sup>	+200 m <sup>3</sup>	①	99%		
	F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	6,200 m <sup>3</sup>	+800 m <sup>3</sup>	③	78%		
	N	屋外集積	0.01未満	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	96%		
	O	屋外集積	0.01未満	42,500 m <sup>3</sup>	-800 m <sup>3</sup>	④	83%		
	P1	屋外集積	0.01未満	50,900 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑤	79%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	4,800 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	80%		
AA	屋外集積	0.01未満	9,000 m <sup>3</sup>	+400 m <sup>3</sup>	①	25%			
瓦礫類 シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	58%	38000 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体(プレス等)完了。(2018年1月)
	E1	シート養生	0.02	14,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%		
	P2	シート養生	0.01	5,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	62%		
	W	シート養生	0.03	7,700 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	①⑤	26%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%	18200 / 31700 (57%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量(4,000m <sup>3</sup> )増加。 (2018年5月)
	A	仮設保管設備	0.14	1,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	14%		
	E2	容器 <sup>※4</sup>	0.01	400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	24%		
	F1	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 <sup>※4</sup>	0.01	15,800 m <sup>3</sup>	+800 m <sup>3</sup>	①⑤⑦	35%	15800 / 45600 (35%)	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量(33,600m <sup>3</sup> )増加。 (2018年2月)
	合計(カレキ)			268,800 m <sup>3</sup>	+2,000 m <sup>3</sup>	—	67%		
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	63%	96800 / 134000 (72%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	2%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—		
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94%			
合計(伐採木)			134,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	76%			
保護衣 屋外集積	容器	0.04	55,100 m <sup>3</sup>	-900 m <sup>3</sup>	⑧	81%	55100 / 68300 (81%)	・使用済保護衣等焼却量 5484t (2019年4月末累積) ・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 1333本 (2019年4月末累積)	
合計(使用済保護衣等)			55,100 m <sup>3</sup>	-900 m <sup>3</sup>	—	81%			

※1 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※2 主な変動理由：①タンク関連工事 ②構内一般廃棄物 ③一時保管エリアOからの移動 ④一時保管エリアJへの移動 ⑤1~4号機建屋周辺瓦礫撤去関連工事  
 ⑥固体庫9棟へ瓦礫の移動 ⑦一時保管エリアQからの移動 ⑧焼却運転

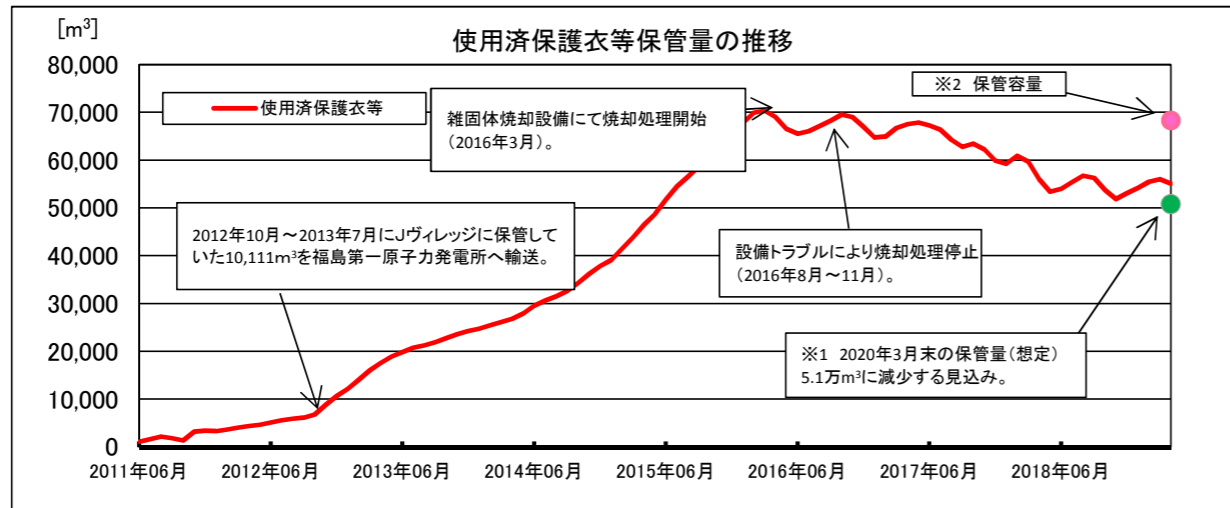
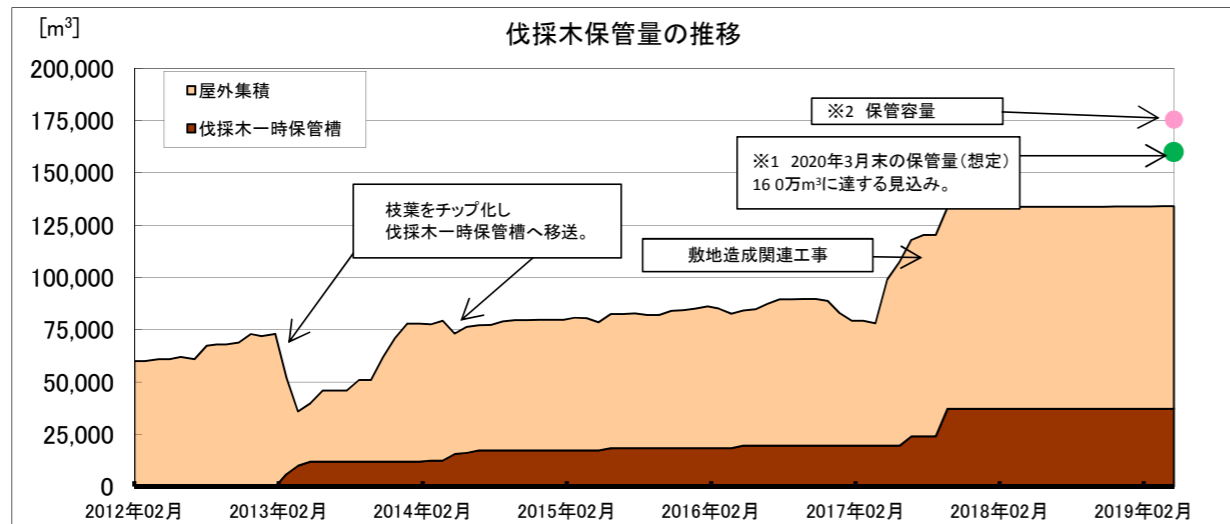
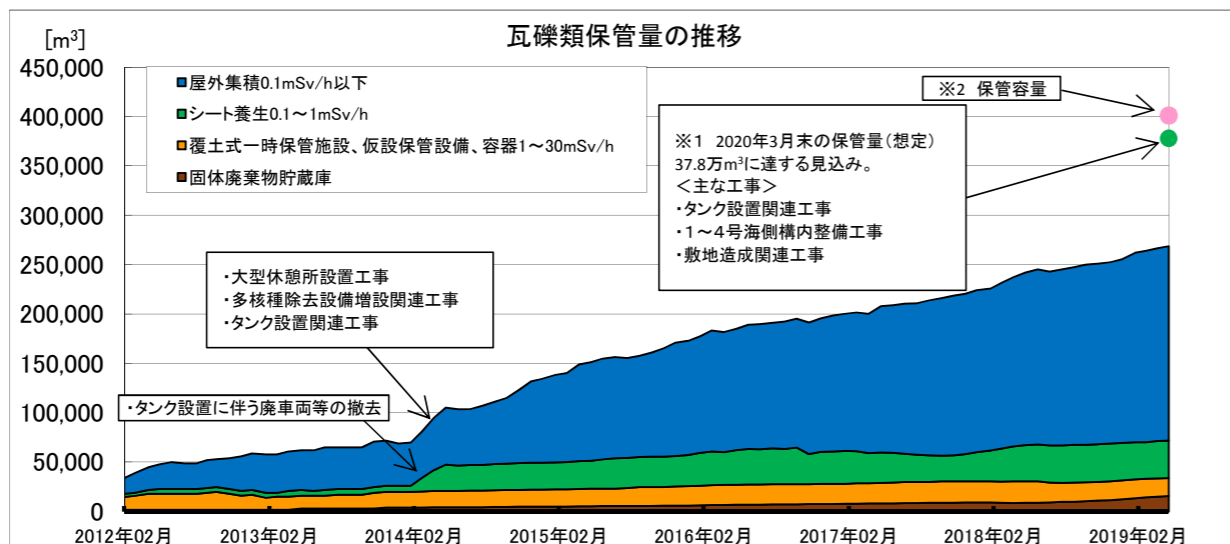
※3 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



### 水処理二次廃棄物の管理状況(2019.5.2時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 <sup>※1</sup> (2019.4.4 - 2019.5.2)	保管量 / 保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	775 本	0 本	4362 / 6372 (68%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	216 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,600 基			+10 基
			増設	1,480 基			+20 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	74 本			0 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	11 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		206 本	0 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,352 m <sup>3</sup>	+22 m <sup>3</sup>	9352 / 10300 (91%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量：9252 [m] タンク底部~水位計の保管量(DS)：約100[m]	

### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2019.4.26 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2019年1月28日認可)の予測値を示す。  
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

### 水処理二次廃棄物の管理状況(2019.5.2時点)

